

彼方「かなた」

校長通信
H24.6.11
Vol.14

【笑顔の修学旅行＆感謝の林間学校】



「みなさんの判断基準は何ですか？私の判断基準は「周囲の笑顔」です。自分がどう動くべきかを考えるとき、班の友達や学級の仲間、先生、両親や家族、地域の人、その時々で笑顔にする相手が変わります。どうすれば笑顔になるかを考え、行動するのです。自分の役割を果たすというのは、周囲の笑顔を増やすことです。沢山の笑顔が、つながる力を強くするのです。みなさんの修学旅行の思い出が、沢山の笑顔で彩られることを願っています。」

という話をし、「笑顔の修学旅行」と定義しました。

京都。奈良での楽しい場面がいくつも目に浮かびます。日程を予定通りに実施できたこと。一分の遅刻もなく二日間の班行動を全班がやり抜いたこと。休みがちだ



た友達が一緒に行動してきたこと、班の男子が先に走って連絡してくれたこと、財布を落とした人のことを考えてみんなで必死にさがしたこと、「静にしてください！」という声かけが全くななくてもみんなの前にリーダーが立つと自然と静になること、移動する車内でお年寄りに笑顔で席を譲っていたこと、「荷物を持ちましょうか？」と声をかけてくれたこと、書き出せばまだまだ続きますが、色々な取り組みが、いつも「誰かの笑顔」を作り出してきたのです。

男子の入浴が終わった初日の夜、お風呂場を覗くと、明らかに使いっぱなしの状態でした。しかも浴槽は、誰かが石鹸かシャンプーを入れてしまったのか、はたまた湯船によく濯がないままのタオルを入れたのかわかりませんが、泡風呂状態でした。これは、子ども達が良くなるチャンス！とばかりに学年の担当の先生にお話をしました。（私たちが若い頃のお風呂担当は必死でした。入浴の時間は最初から最後までずっと子ども達と風呂に入り、入浴の仕方を指導していたのです。）先生方のご指



導のお陰で二日目は、見事に係の子ども達の意識が変わり、素晴らしい入浴活動が見られました。後片付けもホテルの方がびっくりするほどでした。



失敗をチャンスに変えるのは、さほど難しいことではありません！やっばり「笑顔」です！前向きにゴールをイメージして、「誰かの笑顔」をつくるためにみんなで力を合わせて取り組むのです。そのことを修学旅行で沢山見せてくれました。ひとまわり心が成長した三年生のこれからの学校生活が楽しみです！





「林間学校のねらいは二つ。ひとつは『仲間の良さを沢山見つけるために自分の良さを存分に発揮すること。』もうひとつは、『自然の中で自分が生かされていることを感じ、周囲に感謝することができようになること。』です。」事前指導では話せな

かったので、しおりに書き込んだことを再度出発式で話しました。

実に楽しい林間学校でした。子ども達の変化が手に取るように見て取れたからです。

ウォークラリーを始める前に不要物を持ってきてしまったことが問題となり、きちんと解決するまで「待つ！」という学年の先生方の指導が入り、持ってきた人、見て見ぬふりをしてしまった人、実行委員の人、班長など様々な立場でぼつりぼつりと意見が出されました。最後に実行委員の一人から「私たちは、この林間学校を成功させるために来ました。だからこれからみんなで協力することをお約束してください。」という投げかけがあ

ったので、しおりに書き込んだことを再度出発式で話しました。



り、学年みんなでその意見を受け入れ、頑張ろうということになり、沢山の人が意識して行動するようになりました。食堂に集まったときに「静にしてください！」がなくなり、三年生のように自然に静になるまで「待つ」ようになりました。キャンプファイヤーも盛り上がりました。各学級がひとつになり、協力し、学年レクに取り組みました。仲間の良さ、自分の良さが存分に発揮されたひとときでした。



集団や個々に変化するのを目の当たりにするのは実に感動的です。仲間の良さを見つけ、自分の良

いところを精一杯表現している子ども達は最高でした。

失敗は成長するチャンス！とはよく言ったものです。失敗

し、それを越えたところに本当の成功が見えてくるのです。「成功」の反対は、「何もしない」です。失敗しても取り戻そうとしなかつたり、行動を変えようとしなかつたり、何もしないとすれば、

それは、失敗した状態に留まり、うまくできなかったという経験が得られないことなのです。だから「失敗」は、「成功」の途中なのです！

修学旅行や林間学校での失敗は、必ず日常生活に生きてきます！生かしていこう！

